



平成29年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年10月24日

上場会社名 株式会社 不二家
 コード番号 2211 URL <http://www.fujiya-peko.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 櫻井 康文
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 総務人事本部長 (氏名) 中島 清隆
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月9日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

TEL 03-5978-8100

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年12月期第3四半期の連結業績(平成29年1月1日～平成29年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期第3四半期	75,337	2.4	△79	—	197	△67.1	△228	—
28年12月期第3四半期	73,555	0.5	527	—	598	—	△304	—

(注) 包括利益 29年12月期第3四半期 61百万円 (—%) 28年12月期第3四半期 △648百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年12月期第3四半期	△8.85	—
28年12月期第3四半期	△11.80	—

※平成29年7月1日を効力発生日として、当社普通株式 10 株を1株の割合で株式併合を実施したため、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年12月期第3四半期	59,640	—	31,163	—	—	49.8
28年12月期	60,969	—	31,588	—	—	49.3

(参考) 自己資本 29年12月期第3四半期 29,718百万円 28年12月期 30,071百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年12月期	—	0.00	—	1.00	1.00
29年12月期	—	0.00	—	—	—
29年12月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

※配当予想の修正については、本日(平成29年10月24日)公表いたしました「平成29年12月期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※平成29年7月1日付で、普通株式10株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。これに伴い平成29年12月期(予想)の1株当たり配当金につきましては、株式併合の影響を考慮しております。詳細は「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

3. 平成29年12月期の連結業績予想(平成29年1月1日～平成29年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	106,000	1.5	1,300	△48.3	1,600	△40.2	16,400	—	636.25

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※業績予想の修正については、本日(平成29年10月24日)公表いたしました「平成29年12月期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※平成29年7月1日付で、普通株式10株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。これに伴い平成29年12月期の連結業績予想における1株当たり当期純利益につきましては、株式併合の影響を考慮しております。詳細は「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年12月期3Q	25,784,659 株	28年12月期	25,784,659 株
② 期末自己株式数	29年12月期3Q	9,179 株	28年12月期	8,711 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年12月期3Q	25,775,800 株	28年12月期3Q	25,776,075 株

※平成29年7月1日付で、普通株式10株につき1株の割合をもって株式併合を実施しております。期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数につきましては、前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して算定しております。

※四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

業績予想につきましては、適正な情報に基づき作成したものでありますが、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。詳細は添付資料4ページ「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(株式併合後の配当及び連結業績予想について)

平成29年3月24日開催の第122期定時株主総会の決議により、平成29年7月1日付で普通株式10株を1株に株式併合いたしました。なお、株式併合を考慮しない場合の平成29年12月期の配当予想及び、連結業績予想は以下のとおりであります。

1. 平成29年12月期の配当予想 1株当たり配当金 期末1円50銭
2. 平成29年12月期の連結業績予想 1株当たり当期純利益 通期63円63銭

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成29年1月1日～9月30日）のわが国の経済は、企業収益等の改善を背景に緩やかな回復基調が続き、個人消費についても雇用・所得環境の改善から緩やかに持ち直しております。

当社グループが属する食品業界においては、消費者の節約・低価格志向が続く中、販売競争が激化し、経営環境は依然として厳しい状況となっております。

このような環境下にあつて当社グループは、お客様本位の新品開発と既存製品の品質改善に絶え間なく取り組み、売上増を目指す一方で、経費の管理を強化し、利益改善につとめてまいりました。洋菓子事業においては、洋菓子チェーン店の売上減を、スーパー・コンビニエンスストア等の広域流通企業を販路とする部門の売上伸長により補うことを目指しました。製菓事業においては、「ルック」、「カントリーマアム」といった主力ブランドを活用した新品の発売を積極的に進め、歳時や季節商戦への対応を早めた営業政策を実施いたしました。その結果、当社単体では、前年同期を上回る売上及び利益を達成することができました。グループ全体では、前年同期の売上を達成することができたものの、洋菓子チェーン店の売上減や中国事業における中国国内の景気の減速・市場競争の激化や原材料価格高騰による利益率低下の影響もあつて、連結業績では営業損失となり、経常利益につきましても前年同期を下回りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は753億37百万円（対前年同期比102.4%）、営業損失は79百万円（前年同期は5億27百万円の営業利益）、経常利益は1億97百万円（対前年同期比32.9%）、親会社株主に帰属する四半期純損失は2億28百万円（前年同期は3億4百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

当社グループのセグメントの概況は次のとおりであります。

		当第3四半期連結累計期間		前第3四半期連結累計期間		対前年同期比	増減
		平成29年1月1日から平成29年9月30日まで		平成28年1月1日から平成28年9月30日まで			
		売上高	構成比	売上高	構成比		
洋菓子事業	洋菓子	百万円 20,060	% 26.6	百万円 20,462	% 27.8	% 98.0	百万円 △402
	レストラン	5,020	6.7	5,062	6.9	99.2	△42
	計	25,080	33.3	25,525	34.7	98.3	△445
製菓事業	菓子	43,819	58.2	42,553	57.9	103.0	1,266
	飲料	4,911	6.5	4,143	5.6	118.5	767
	計	48,731	64.7	46,697	63.5	104.4	2,034
その他		1,525	2.0	1,332	1.8	114.5	192
合計		75,337	100.0	73,555	100.0	102.4	1,781

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

<洋菓子事業>

洋菓子市場が大きく変化する中、当社単体の洋菓子においては、洋菓子チェーン店の売上減を、スーパー・コンビニエンスストアをはじめとする広域流通企業への売上伸長により補うことを目指しました。洋菓子チェーン店については、既存の店内製造機能を活用し、白桃やメロン、シャインマスカットなどを使用した製品を作りたての状態の販売し、売上の回復につとめました。広域流通企業との取り組みについては、取引先の拡大に加え、「ルックブランド」のもと、4種の味が楽しめる「ルックプチタルト」など、新規採用の製品数が伸長し、売上は着実に増加しております。しかしながら、収益性改善のため不採算店の閉店を進めたことなどによる洋菓子チェーン店の売上減を補うまでには至らず、単体の洋菓子は、前年同期を下回る売上となりました。経費面では、物流費をはじめとする販売管理費の削減に引き続き取り組んでおります。なお、当第3四半期連結会計期間末の営業店舗数は、前年同期差26店減の915店となっております。

㈱スイーツガーデンについては、同社チェーン店において焼きたて製品の拡販、オープン機能を有効に活用した新業態店舗の出店のほか、不二家店舗、山崎製パンルート及びコンビニエンスストアへの製品の提案・販売にも積極的に取り組んでおり、堅調な売上となりましたものの、利益面では人員確保に伴う人件費の高騰が負担となりました。

㈱ダロワイヨジャポンについては、集客力のある駅ビル立地店舗の売上が好調に推移しております。また、主力製品であるマカロンの試食販売を積極的に行ったことも奏功し、前年同期を上回る売上となりました。

この結果、洋菓子類の売上高は、200億60百万円（対前年同期比98.0%）となりました。

レストランについては、メニューを刷新し、穀類を使用した健康志向のサラダやパスタを強調したメニューを投入するとともに、プレミアムフライデーなど商機への対応を積極的に進めておりますが、お客様の節約・低価格志向や閉店の影響があり、売上高は、50億20百万円（対前年同期比99.2%）と、回復基調にはあるものの、前年同期の実績を下回りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における洋菓子事業全体の売上高は、250億80百万円（対前年同期比98.3%）となりました。

<製菓事業>

当社単体の菓子においては、「ルック」、「カントリーマアム」、「ホームパイ」といった主力ブランドを中心とした新製品開発・品質改善を進め、チョコレート製品等の製造設備を増強、効率化を促進し、さらなる生産性の向上をはかっております。製品面では、1箱で4段階のカカオ割合の食べ比べが楽しめる「ルック4」を発売したほか、開発テーマである『健康・グルメ』のもと、豊富なカカオポリフェノールを含んだ「ルック・カレ」のリニューアルに加え、「毎日カカオ70%（ピーナッツ）」を発売するなど、健康志向の品揃えを強化したチョコレート製品が売上に貢献しました。また、徳用大袋製品を中心にブランドを横断したハロウィン製品の発売を早期に行ったことも売上の伸長に寄与しております。利益面では、チョコレート製品、徳用大袋製品の販売が好調に推移した結果、主力生産ラインの稼働率が上昇し、収益性を向上させることができました。

不二家（杭州）食品有限公司については、現地における景気の減速に加え、現地流通企業の台頭に伴う小売市場の変化や販売競争の激化の影響から、経営環境は厳しい状況となっております。新規の取引先を獲得して売上げ増に取り組むとともに、中国で拡大するインターネット通販市場における販売も積極的に行い業績の回復をはかっておりますが、前年同期を大幅に下回る売上及び利益となりました。

この結果、菓子の売上高は、438億19百万円（対前年同期比103.0%）となりました。

飲料については、新たな販売代理店の協力により主力製品の小売店への導入が進んだことに加え、新製品の「白いネクター」、「ネクター桃と葡萄」の販売が好調に推移していることや、「レモンスカッシュ」の自販機での取り扱いが増加したこともあり、売上高は、49億11百万円（対前年同期比118.5%）と前年同期を大幅に上回ることができました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における製菓事業全体の売上高は、487億31百万円（対前年同期比104.4%）となりました。

<その他>

その他事業は、通販・キャラクター事業部のグッズ販売事業・ライセンス事業及び㈱不二家システムセンターの受注請負、データ入力サービスなどの事務受託業務であり、売上高は、15億25百万円（対前年同期比114.5%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産、負債、純資産の状況は以下のとおりであります。

流動資産は283億74百万円で、主に売掛債権の減により前連結会計年度末に比べ11億62百万円減少いたしました。固定資産は312億65百万円で、主に無形固定資産の減により、前連結会計年度末に比べ1億66百万円の減少となりました。

この結果、総資産は596億40百万円で前連結会計年度末に比べ13億29百万円減少いたしました。

また、流動負債は224億72百万円で、主に短期借入金の1年内の振替による増やその他の増により前連結会計年度末に比べ6億14百万円増加いたしました。固定負債は60億4百万円で、主に長期借入金の1年内への振替により前連結会計年度末に比べ15億18百万円減少いたしました。

この結果、負債は合計284億77百万円で、前連結会計年度末に比べ9億3百万円減少いたしました。

純資産は311億63百万円で、主に配当支払等による利益剰余金の減により前連結会計年度末に比べ4億25百万円減少いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年12月期の連結業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ、平成29年2月10日に公表いたしました通期の業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日(平成29年10月24日)公表の「平成29年12月期業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,459	11,625
受取手形及び売掛金	13,803	9,791
商品及び製品	2,896	3,175
仕掛品	306	341
原材料及び貯蔵品	2,162	1,862
繰延税金資産	315	788
その他	864	1,027
貸倒引当金	△270	△236
流動資産合計	29,537	28,374
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,537	6,361
機械装置及び運搬具（純額）	7,562	8,827
土地	3,689	3,689
リース資産（純額）	1,290	1,127
その他（純額）	1,636	793
有形固定資産合計	20,717	20,799
無形固定資産		
のれん	333	0
その他	1,176	1,056
無形固定資産合計	1,510	1,056
投資その他の資産		
投資有価証券	5,827	5,822
繰延税金資産	81	82
敷金及び保証金	2,541	2,570
退職給付に係る資産	205	231
その他	713	906
貸倒引当金	△164	△203
投資その他の資産合計	9,205	9,409
固定資産合計	31,432	31,265
資産合計	60,969	59,640

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,392	6,547
短期借入金	4,164	4,966
1年内償還予定の社債	390	140
リース債務	421	382
未払金	5,490	4,318
未払法人税等	457	279
賞与引当金	301	697
その他	3,239	5,140
流動負債合計	21,858	22,472
固定負債		
社債	510	370
長期借入金	2,912	1,650
リース債務	1,091	920
繰延税金負債	88	84
退職給付に係る負債	2,047	2,086
長期末払金	37	37
その他	835	855
固定負債合計	7,523	6,004
負債合計	29,381	28,477
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,280	18,280
資本剰余金	4,065	4,065
利益剰余金	7,271	6,785
自己株式	△16	△17
株主資本合計	29,601	29,114
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	132	143
繰延ヘッジ損益	-	0
為替換算調整勘定	198	228
退職給付に係る調整累計額	138	231
その他の包括利益累計額合計	470	604
非支配株主持分	1,517	1,445
純資産合計	31,588	31,163
負債純資産合計	60,969	59,640

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)
売上高	73,555	75,337
売上原価	38,840	40,516
売上総利益	34,715	34,821
販売費及び一般管理費	34,188	34,900
営業利益又は営業損失(△)	527	△79
営業外収益		
受取利息	36	29
受取配当金	47	36
持分法による投資利益	102	166
受取奨励金	-	43
その他	78	88
営業外収益合計	264	365
営業外費用		
支払利息	73	54
為替差損	61	11
その他	59	22
営業外費用合計	194	89
経常利益	598	197
特別利益		
固定資産売却益	1	-
投資有価証券売却益	-	12
特別利益合計	1	12
特別損失		
固定資産廃棄損	101	47
減損損失	-	2
のれん償却額	-	291
特別損失合計	101	342
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	497	△132
法人税、住民税及び事業税	596	446
法人税等調整額	△59	△494
法人税等合計	536	△48
四半期純損失(△)	△39	△84
非支配株主に帰属する四半期純利益	265	143
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△304	△228

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年1月1日 至平成28年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年1月1日 至平成29年9月30日)
四半期純損失(△)	△39	△84
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△30	1
為替換算調整勘定	△738	41
退職給付に係る調整額	167	92
持分法適用会社に対する持分相当額	△7	10
その他の包括利益合計	△609	145
四半期包括利益	△648	61
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△704	△94
非支配株主に係る四半期包括利益	55	155

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(固定資産の譲渡)

当社は、平成29年9月25日開催の取締役会において、固定資産を譲渡することについて決議しております。

1. 譲渡の理由

保有資産の有効活用を図るため、下記土地・建物を譲渡することといたしました。

2. 譲渡資産の内容

所在地	資産の内容	譲渡益見込額	現況
東京都中央区銀座6丁目2番地2	土地 296.82m ² 建物 延2,233.50m ²	約190億円	店舗及び事務所

※譲渡益見込額は譲渡価額から帳簿価額及び譲渡に係る費用を控除した概算であります。

3. 譲渡の日程

- (1) 取締役会決議 平成29年9月25日
- (2) 契約締結日 平成29年9月25日
- (3) 物件引渡期日 平成29年11月30日(予定)

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年1月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	25,525	46,697	72,222	1,332	73,555	—	73,555
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	569	569	499	1,068	△1,068	—
計	25,526	47,266	72,792	1,831	74,624	△1,068	73,555
セグメント損益(△は損失)	△1,161	3,759	2,598	127	2,725	△2,198	527

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターグッズ等の通信販売、ライセンス事業、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。

2 セグメント損益(△は損失)の調整額△2,198百万円には、固定資産減価償却費の調整額5百万円、のれんの償却費の調整額△40百万円、その他の調整額2百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,166百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。

3 セグメント損益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年1月1日至平成29年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	25,080	48,731	73,811	1,525	75,337	—	75,337
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	534	534	498	1,033	△1,033	—
計	25,080	49,266	74,346	2,024	76,371	△1,033	75,337
セグメント損益(△は損失)	△1,617	3,665	2,047	209	2,257	△2,336	△79

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターグッズ等の通信販売、ライセンス事業、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。

2 セグメント損益(△は損失)の調整額△2,336百万円には、固定資産減価償却費の調整額2百万円、のれんの償却費の調整額△40百万円、その他の調整額4百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,303百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。

3 セグメント損益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)
重要性が乏しいため記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間に、各報告セグメントに配分していない全社ののれんにおいて、特別損失としてのれん償却額291百万円を計上しております。